

令和元年度 乳幼児教育振興特別事業
全幼研ワクワクプロジェクト保育研修会報告書

「主体的・対話的で 深い学び」について

提出日 令和元年 8月 7日

支部長名 藤原 はるみ

- 実施日 令和 元年 8 月 7 日 (水)
時 間 午後 13 時 30 分～ 16 時 00 分
- 共 催 秋田県放送教育研究協議会 幼保部会
- 会 場 秋田県 教育会館
- 参加者 認定こども園保育教諭、私立幼稚園教諭、公立保育所(園)保育士、
私立保育所(園)保育士、養成校短大講師、学生、並びに各園園長
(計 63 名)
- 講 師 所属・職名 全幼研顧問・聖徳大学大学院 教職研究科教授

名前 塩 美佐枝 先生
- 内 容
 - ・これからの時代を生きる子どもたちをどのように保育していくか、いまこそ乳幼児教育の育みたい資質と能力について詳しく伺う。豊かな体験から自分で考えたり気付いた知識を使って、考えたり試したり、工夫したり表現したりする思考力、判断力、表現力が見についていくことを改めて学ぶ。
 - ・化学、言葉、知能、いかなるものが進化しても、人間の営みを大事にして、よりよい生活を作り出すことが大切。
 - ・映像を見て、グループで話し合う。(30分)
子どもたちが主体的に、対話的に学んでいる姿を話し合おう。
 - ・保育園の子どもたちの愛着関係の大切さについて、人への興味、人への信頼の部分でありやがて主体的、対話的に育っていく基礎となる。
 - ・友だちとの関わりの中で遊びながら学び、環境が持っている力を使って心行くまで遊ぶことが大切である。
自分で環境にかかわり(主体的)、友だちとの関係性(対話的)の中で、豊かな体験(環境)ができる保育をする。

○まとめ（成果と課題）

<成果>

この度のプロジェクト事業を受けて、2 団体共催で仙台より講師をお招きして保育研修会を開催することができた。

参加者を募るにあたり、国公立幼稚園団体・私立保育園団体・認定こども園団体・公立保育園団体の方々が協力して参集を呼びかけてくださり、保育者が置かれた環境が違って、日々子どもと向き合い保育実践する保育者たちが集い、話し合ったことが意義深い。

<課題>

保育者が忙し過ぎて、自園の教職員全員で学び合う時間、保育を語りあう時間が取れないことが共通した悩みであった。それだけに個々の保育者の保育の質が問われることとなる。研修の機会を増やし、自らの保育を問い、子どもの遊びを見る目を

育てることが今後の課題となる。